

クイナの森 (ヤンバルクイナ生体展示学習施設)

ヤンバルクイナ (Okinawa Rail) は、沖縄北部のみに生息する飛べないけれど速く走れる鳥です。国頭村の公式シンボルでもあります。運が良ければ、森で餌をとっているところを見かけられるかもしれませんが、クイナの森は飼育下でこの鳥を見られる唯一の場所です。

かつて「あわてんぼう」を意味するアガチャまたはアガチと呼ばれていたヤンバルクイナは、時速 40 キロメートルで走り、捕食者から身を守るためのねぐらである低い位置に茂る枝に地面から直接飛び込むことができます。また、非常に知能が高く、鏡に映る自らの姿を認識できるともされています。川や水たまりで 1 日に数回水浴びをし、お決まりの翼を広げたポーズで仕上げます。ヤンバルクイナの好物はヤンバルマイマイで、岩の上で殻を砕いて食べます。

化石から、ヤンバルクイナはかつて沖縄全域に生息していたことが分かっていますが、人間の侵入や 1910 年に毒蛇を狩るために導入されたマングースのような外敵により、ヤンバルクイナの生息圏は森の多い北部だけに縮小しました。一時期は、個体数が 700 にまで減少したものの、島から捕食者を排除することを目指す「マングースバスターズ」のチームのおかげで、その数は再び増えつつあります。また、保護・繁殖プログラムも進行中です。運が良ければ、ヤンバルクイナはやんばるの森と同じくらい長く生き残ることができるでしょう。